



Spin-L「若手の会」第一回リトリート2024

.....

開催レポート

2024年9月11日～12日、自然科学研究機構 生理学研究所（愛知県岡崎市）にて、「第一回 Spin-L若手の会 リトリート」がオンサイトで開催されました。この会は、参画機関の若手研究者と技術者が実行メンバーを務め、企画・運営を行っています。

記念すべき初回となる今回は、Spin-L参画機関のコア機関（自然科学研究機構 生理学研究所、分子科学研究所、生命創成探究センター）とハブ機関（京都大学 化学研究所、大阪大学 蛋白質研究所、新潟大学 脳研究所、QST 量子生命科学研究所）から若手研究者・技術者が生理学研究所に集まり、異分野交流を深めました。



開会式

Spin-L若手の会代表・谷中冴子先生が開会の挨拶をされました。「某若手の会での出会いが、10数年の時を経て、Spin-Lの事業推進と、Spin-L若手の会の設立に繋がっている。今回のリトリートもそんな機会になって欲しい」とお話されました。

次に、生理学研究所長/スピン生命フロンティア本部長・鍋倉淳一先生より一言ご挨拶がありました。「Spin-Lは分野融合研究を進めるための体制づくり。若い力を発揮して、異分野の研究者達と学び、交流を深めて欲しい」とお話されました。



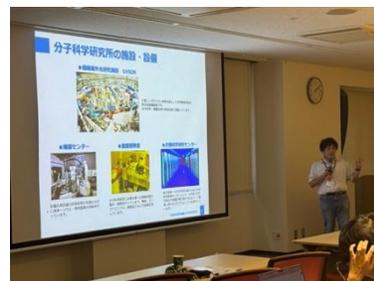
開会式の様子 - 谷中冴子先生 (Spin-L若手の会・代表) 挨拶



- 鍋倉淳一先生 (生理学研究所長/スピン生命フロンティア本部長) 挨拶

講演会

講演会では、実行メンバーが座長を務め、コア機関とノード機関から、Spin-L事業を牽引する7名の先生方に、各機関の特色ある研究内容や、共同利用・共同研究の事例、各先生の専門分野における最新情報などをお話いただきました。質疑応答では、異分野の若手研究者、技術者からの質問にも丁寧にわかりやすく対応いただきました。聴衆からは、「分野が違うが勉強になった」、「さらに深く知りたくなった」等の感想をいただきました。



講演会の様子 - 登壇された先生：梶弘典先生(京都大学 化学研究所)、宮ノ入洋平先生(大阪大学 蛋白質研究所)、島田斉先生(新潟大学 脳研究所)、高草木洋一先生(QST 量子生命科学研究所)、中村敏和先生(分子科学研究所)、加藤晃一先生(ExCELLS)、竹村浩昌先生(生理学研究所)

自己紹介

自己紹介は、分野が異なる参加者がお互いを知る目的で行いました。当日までに、各自が作成したプロフィールシートを集めて「プロフィール集」とし、配布しました。このプロフィール集を眺めながら、各自60秒ずつ自己紹介を行いました。さらに、各自が学会等で使用したポスターをセミナー室(休憩用の部屋)に展示しました。一息つきながらポスターの前に集まって、研究の紹介をしました。



自己紹介の様子

グループワーク

グループワークでは、参加者を3つのグループに分け、実行メンバーが準備したトピックスについて意見交換をしました。各グループは、様々な身分・研究分野・研究背景をもつ参加者で構成されていて、まさに「異分野コミュニケーション」の場となりました。各グループに分かれたあとは、より詳細な自己紹介をして、それから議論に臨むグループもありました。実行メンバーがファシリテーターを務め、全体討論に向けてプレゼン用のスライドをまとめ上げました。

トピックスシート

- ① 分野融合(分野を超えて考える共同研究プロジェクト)
- ② 技術交流(各々の得意分野、技術に関する意見交換)
- ③ 人材育成
 - 1) 学生や分野が異なる研究者・技術者へのアピール方法
 - 2) あったらしいプログラムや支援について
 - 3) 10年後、20年後のキャリアアップについて
- ④ 産学連携(企業との共同研究の進め方、企業が求める研究内容とは)
- ⑤ その他

グループワーク - 実行メンバーが準備したトピックス

全体討論では、各グループのプレゼンを行いました。各分野の研究者、若手研究者から質問や助言があり、今後の実験や研究の発展、共同研究に繋がる有意義な時間になったようでした。総括では、鍋倉淳一先生より、「皆さんの新しいアイデアを垣間見られてよかった。ここからさらに広げてほしい」とお話がありました。



グループワークの様子 - 全体討論での質疑応答

閉会式

閉会式では、鈴木克明先生（Spin-L若手の会・副代表）より挨拶がありました。「初回だから不安もあったが、異分野の研究者達と交流ができて、今後の研究を進めるための、有意義な会になった。第二回リトリートの開催も検討しているので、ぜひ楽しみにしてください。」とお話されました。



閉会式の様子 - 鈴木克明先生の挨拶

最後に

お忙しい中、そして、まだ残暑が厳しい中、遠方からたくさんの方に参加いただき、誠にありがとうございました。会が進むにつれて、若手同士が笑い声交じりに仲良く、時に真剣に交流していた姿がとても印象的でした。

第二回リトリートは京都大学 化学研究所（京都府宇治市）で開催します。今回の会終了直後に、実行メンバーで反省会を行いました。「よかった点」と「改善が必要な点」を出し合い、今後のリトリートに向けて、若手の皆さんが興味をそそられるプログラムを企画したいと話合いがありました。Spin-Lの事業はまだ始まったばかりですが、熱心な研究者・技術者の皆さんと今後もより一層、盛り上げて行けたらいいです。



作成者：Spin-L運営事務局（生理学研究所・上原優子）

作成日： 2024年9月18日